

平成 24 年 11 月 1 日

上越市長 村山 秀幸 様

大島区地域協議会
会長 石塚 隆雄

大山温泉あさひ荘の再開に関する意見書の提出について

当協議会では、本年 3 月 1 日から休館となっている大山温泉あさひ荘の再開に向け、上越市地域自治区の設置に関する条例第 7 条 1 項の規定に基づき、自主審議を行ってきました。

この間、現地調査をはじめ、地区別懇談会への参加、勉強会の開催、関係団体との協議等を通じて、「住民又は地域として、どのような協力が可能か」を中心に、真剣な議論を重ねてきました。また、10 月には、大島まちづくり振興会が主体となり、大島区に在住する 20 歳以上の全員を対象としたアンケートも行われたところであり、別紙のとおりその結果報告を受けています。

当協議会ではこの度、この間の経過を踏まえながら、下記のとおり意見を取りまとめましたので提出します。

記

1 再開が求められる主な背景

(1) 大山温泉あさひ荘に寄せる大島区市民の思い

アンケートの結果では、「あさひ荘を再開する必要はない」との回答は 3.9%にとどまっており、大多数の住民から、あさひ荘が何らかの形で再開されることが望まれています。また、アンケートの回収率は 9 割に達し、本件に対する関心の高さが改めて明らかになっています。

(2) 大島区内の行事との結び付き

あさひ荘の位置付けを問うアンケートの設問でも、「行事ができる施設」が最も多く、あさひ荘と区内の行事との結び付きの強さがうかがわれます。区内で「山菜まつり」や「ほたる祭り」、「灯の回廊」等の行事が行われる際には、あさひ荘での入浴と合わせて楽しめる方が多く見受けられました。

(3) 大島区外からの利用状況

平成 23 年度の日帰り入浴客数は 7 万 3 千人を超えていますが、アンケートの結果から推計すると、このうち 6 万人余りが区外からの利用であることが分かりました。このようなことから、大山温泉の泉質と国道 253 号沿いの立地の良さが魅力となり、地域の内外を問わず広く利用されてきたこ

とが推察され、現に区外からも再開を望む声が多く寄せられています。

2 再開の要望

この間の経過を通じ、当協議会では、地域の核となる施設として、あさひ荘の必要性を改めて確認したところであり、現在、市でも重点施策として取り組まれている中山間地域の振興という観点からも、あさひ荘の再開を強く要望します。

営業部門については、アンケートの結果から、大島区市民の意向としては、日帰り入浴から宿泊までできるこれまでどおりの形態で再開を求める声が多数を占めていますが、一方で、地元の宿泊利用者は1割未満であることが分かっています。また、関係団体との協議等においては、まずは比較的運営が容易な入浴部門から業務を展開していくべきであるとの根強い意見もあったところです。このようなことから、当協議会としては、平成10年8月にリニューアルされ、比較的新しい大浴場を中心とした「日帰り温泉施設」としての再開を要望します。

3 住民または地域としての協力の見通し

仮に入浴部門のみの再開となった場合、地元飲食店からの出前・仕出しによる食事の提供に協力したいとの申出も既に受けています。これが実現した場合には、あさひ荘と地元飲食店との相乗効果も見込まれることになります。

また、アンケートの結果では、「入浴券の購入に協力する」を選んだ回答者が900人を超え、売上額の試算は約1千万円に上ります。さらに、「除雪や草刈り等、施設管理面での共同作業に協力する」を選んだ回答者が約130人、「ファンクラブ等の後援組織を作り、利用の拡大に協力する」を選んだ回答者が約100人に上るなど、利用面及び管理・運営面で、多様な主体から一定の協力が得られることが十分に見込まれます。